

2025年度 教育計画

教科	理科	単位数	前期 2	後期 2
科目	生物	スクーリング(時間)	前期 8	後期 8
科目的目標	①レポートを通して学習内容を理解し、教科書を丁寧に読む態度を身につける。 ②スクーリングで各单元の重要事項の解説を通して基礎的・基本的事項の定着を図る。 ③身近な科学的事象・科学の話題などを見聞きすることで、科学に対する興味・関心を高める。			
教科書	高等学校 生物（実教出版702）	学習書	なし	
副教材	なし	その他教材	なし	

学期	月	項目	内 容	スクーリング				テスト	レポート	
				本校	都城	小林	日南		回数	日
前期	4	生命の起源と細胞の進化	生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化にも触ながら、その概要を理解する。	20 28						
	5	遺伝子の変化と進化のしくみ	遺伝子の変化を引き起こす突然変異について理解し、生物の変異、進化の証拠やその要因、進化説などについて理解する。	12 18 26					第1回	14
	6	生命現象とタンパク質	タンパク質の多様性および特異性に基づく機能には、タンパク質分子の立体構造が深く関わっていること、タンパク質の立体構造はそのアミノ酸配列によって決まることなどを理解する。	9 15 23 29					第3回	11
	7	代謝	同化は主に光合成の反応を、異化は呼吸の反応を理解する。同化と異化はそれぞれエネルギー吸収・放出反応であり、エネルギーの出入りやエネルギーの変換の際には、生物体のエネルギーの通貨としてATPが用いられていることを理解する。	7 13					第5回	9
	8	前期テスト	前期レポートは下記の範囲を中心に出題します。 前期レポート第1回～3回、テスト対策プリント（第3回 レポート）に同封）					24		
	9	前期テスト 発生と遺伝子発現	受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができるなどを重点的に理解する。	28				7		
後期	10	発生と遺伝子発現 遺伝子を扱う技術	バイオテクノロジーについては、遺伝子操作が様々な分野で研究手法として用いられていること、利用については、まだ様々な課題があるので、その推進に当たっては十分な配慮が大切であることを理解する。	6 12 20					第1回	15
	11	生物の環境応答 動物の反応	刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握させ、各器官については、働きについて理解する。	3 17					第3回	12
	12	植物の成長と環境応答 生態と環境 生態系	環境によって制御される、植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などの現象を理解する。 生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。	1 7 15 21					第5回	5
	1	後期テスト	後期レポートは以下の範囲から主に出題します。 第1回 1 3 5 第2回 1 3 4 第3回 1 2 3 数値や考えの順番は変わることがあります	5					第6回	7
	2							25		
	3							8		